

令和5（2023）年度

高松大学・高松短期大学 自己点検・評価報告書

令和6年9月

**【評価の基準等】**

- ・自己点検・評価は事業ごとに行う。
- ・次の4段階で評価し、該当の評点を記入する。

評点	内 容	評 価 の 目 安
IV	年度計画を十分に実施している	事業を実施し、十分に期待する結果や成果を挙げたとき (概ね計画に対する達成度 90%以上)
III	年度計画を概ね実施している	事業を実施し、概ね期待する結果や成果を挙げたとき (概ね計画に対する達成度 70%以上)
II	年度計画を十分には実施していない	事業を実施したが、期待する結果や成果を挙げられなかったとき (概ね計画に対する達成度 70%未満)
I	年度計画を大幅に下回っている 又は実施していない	事業の実施に至らず引き続き検討段階であるとき又は取り組みをしていないとき

## 自己点検・評価（個別評価）

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<b>1. 理念・目的</b>	<p>大学・研究科・短期大学の建学の精神、理念・目的について、入学案内やホームページ、学生便覧等に明記して周知を図った。事業計画説明会において、建学の精神や教育理念、教育目標、本学の使命について教職員が情報共有した。</p> <p>また、大学院におけるSociety5.0社会に対応するためにカリキュラム改革を行うとともに、3つの方針について検討した。</p>		
【1】大学・研究科・短期大学の理念・目的の周知	<input type="checkbox"/> 大学・研究科・短期大学の理念・目的の周知を図る。 建学の精神、理念・目的について、学生便覧及び大学院履修要項等に明記して周知徹底を図る。 また、入学案内及びホームページを通じて、社会に広く公表する。	・建学の精神、理念・目的について、学生便覧及び大学院履修要項等に明記し、新入生には冊子、在学生には電子媒体で配布した。また、学部・学科オリエンテーションの中で周知した。	IV
【2】大学・研究科・短期大学の理念・目的に基づいた適切な教育研究活動等の実施	<input type="checkbox"/> 理念・目的を踏まえて策定した3つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）を全ての構成員が共有し、それに基づいて教育研究活動等を実施する。 <input type="checkbox"/> 大学院におけるSociety5.0社会に対応する人材育成のための3つの方針の検討	・年度始めに全教職員を対象とした事業計画説明会において、学長から、「建学の精神」、「教育理念」、「教育目標」及び「本学の使命」等を説明し、大学全体で情報を共有した。 ・Society5.0社会に対応するために専門科目に新たに経営情報領域を設け、科目の充実を図ったり、情報コースの科目系統図を作成するなど、カリキュラム改革を行うとともに、3つの方針について検討した。	IV  III
【3】本学の建学の精神・教育理念に基づいた、ビジョンの策定と、その具体化に向けた中期目標・中期計画の改正			
<b>2. 内部質保証</b>	<p>令和4年度に実施した事業について自己点検・評価を行うとともに、外部評価委員会において自己点検・評価結果について評価を受け、自己点検・評価報告書と外部評価委員会報告書をホームページに掲載し公表するほか、内部質保証推進委員会において自己点検・評価結果を踏まえた改善事項について協議を行い、理事会に諮った。</p>		
【4】全学的な内部質保証の推進体制	<input type="checkbox"/> 定期的な自己点検・評価	・令和4（2022）年度に実施した事業について自己点検・評価	III



中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	イメージの向上を図る。		
<b>4. 教育課程・学修成果</b>	<p>大学では、学生が人工知能（AI）や数理科学分野への関心を高め、それを活用する基礎的な能力を学ぶことができる「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた。大学の全学共通科目で数理科学やデータサイエンス、AIが社会生活で広く活用されている事例を学ぶほか、情報演習を通じてデータを扱うといった基本的な分析活用法も習得できることになった。</p> <p>ICTスキルや情報活用能力を備えた人材の育成を図るため、令和5年度の入学生から講義や予習・復習、レポートの作成等でパソコンを用いて学ぶBYODを導入した。また、BYODの導入に伴い学生貸出用ノートパソコンを40台整備した。また、常勤教員を対象にBYODを活用した授業について調査を行った。</p> <p>教育職員免許法施行規則に基づき、教職課程を実施するためのカリキュラムや教員組織、施設及び設備の状況等について、令和4年度の教職課程の自己点検・評価を行い、報告書を一般社団法人全国私立大学教職課程協会に提出し、完了証が発行された。また、報告書と完了証を大学ホームページで公表した。</p>		
【6】体系的な教育課程の編成と、学生の主体的学びを尊重する教育の実施	<input type="checkbox"/> 入学前教育 新入生が大学での授業や学生生活にスムーズに入っていけるような取り組みを実施する。また、その成果を踏まえて、より効果的な実施方法・内容を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前課題（推薦図書についての感想文、教育・保育に関わる課題、「なりたい保育者像」を提出）</li> <li>・冊子「仲間となるみなさんへ」の配付</li> <li>・入学前説明会、準備セミナーの開催</li> </ul>	(経営学部) ・入学予定者に対し、事前に各教員の推薦図書を示し、その一つについて入学までに感想文を提出させ、教員がコメントした。読書感想文の提出対象者102名に対し、提出者は93名であった。提出率は91.2%であり、目標値（80.0%）を大幅にクリアすることができた。 (発達科学部) ・令和5（2023）年末から、入学予定者に対して次の4つの学習課題を提供した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもや教育・保育に関するニュースの要約及び感想のまとめ（毎週1件）</li> <li>②推薦図書の読書と感想文のまとめ</li> <li>③自分が居住する市町の子育て支援の取り組みの調査</li> <li>④基礎学力向上のための自主学習教材への取り組み</li> </ol> また、3月に入学準備セミナーを開催し、卒業生からの学部での学びに関する講話や在学生や教員との交流を実施した。	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□学外セミナーの実施</p> <p>学部・学科で学ぶ意欲を高め、学生同士、学生と教員との親睦を図ることを目的として、入学後に学外セミナーを実施する。</p>	<p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年(2024)度入学生に向けた入学前教育は、冊子「仲間となるみなさんへ」と入学前課題を郵送して実施した。入学前課題は入学式後の保育オリエンテーションで回収し(回収率100%)、今後、「保育職基礎演習Ⅰ」でフィードバックして、半期毎の目標設定や探究活動に向けての準備で活用する。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12月までの合格者に対しては1月、1月以降の合格者に対しては3月に、入学前説明会を実施した。なお、入学前に実施したほうがよい内容は入学前説明会で、授業開始前までに実施すればよい内容については新年度オリエンテーションで実施し、新入生が入学前に登学する回数を1回として負担を軽減した。また、入学前の学習として、ラインズドリルベシック(eラーニング)を取り入れた学習ツールを使用した。入学前教育の参加率は100%であった。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月に、ユニバーサルスタジオジャパンにおいて実施した。新入生84名、上級生8名、教員12名が参加し、学生同士、学生と教員との親睦を図ることができた。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月の2日間の日程(宿泊なし)で、1日目はとらまる公園(東かがわ市)で運動会、2日目は鳴門及びその近郊の観光施設で1・2年生の交流を行った。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルスタジオジャパンに行き、学生同士及び学生と教員との親睦を図った。また、親子や子どもに優しい配慮された施設設備やサービスについても多くの発見を得て、後日報告書にまとめた。</li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□初年次教育の充実</p> <p>高大接続にも配慮し、初年次教育の充実を図り、4年間又は2年間の大学生活を有意義に過ごせる基礎的学力等を修得させる。</p> <p>□研究室制度を主体とした教育活動の充実</p> <p>本学の建学の精神の具現化である「研究室制度」をより一層効果的に運用するため、学生の実態を踏まえたゼミナール活動の充実を図る。</p> <p>・担当教員のゼミナール・卒業論文指導力向上方策の実施</p>	<p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行支援の補助金を利用して2回実施し、4月にユニバーサルスタジオジャパン、6月に屋島を訪問した。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初年次教育共通のテキスト、「スタディスキルズ・トレーニング(実教出版)」を用いた教育により、4年間の大学生活を有意義に過ごせる基礎的学力を概ね修得させることができた。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎演習Ⅰ」及び「基礎演習Ⅱ」の中で、漢字検定や日本語検定の問題集を使って国語力の向上を図った。また、当該科目と「児童学研究法」の授業によって、大学での学びの基礎力の育成を図った。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動と連動させながら、保育学科の初年次教育を実施した。保育職や保育者の役割を理解しながら、自分なりの探究活動に取り組み、その成果を発表し、全体で共有することができた。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎演習Ⅰ」の授業において、「大学での学び方入門」や「ノートの取り方、レポートの書き方」セミナーを実施した。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生のゼミナールは102名を10ゼミナールに配属した。2年生のゼミナールは102名を11ゼミナールに配属した。その際、経営情報コースの希望者が多かったことから、ゼミナール数を1つ増やして3ゼミナール体制とした。3年生のゼミナールは、ゼミナール間で配属学生数に多少の差異はあるが、本</li> </ul>	<p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1、2、3年次演習の学生配属方法の見直し</li> <li>・ VR（バーチャルリアリティ）学習教材の活用</li> <li>・ 卒業論文発表会及び卒業論文構想発表会</li> <li>・ ゼミ連絡会</li> </ul>	<p>人の希望を優先して107名を12ゼミナールに配属した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業論文中間報告会は、12月の3校時から5校時にわたって、3年生参加のもと実施した。</li> <li>・ 卒業論文の提出は、担当教員の適切な指導により、卒業意欲のある4年生全員が作成し、期限内に提出した。</li> <li>・ VR（バーチャルリアリティ）学習教材を試験的に導入し、代表ゼミナールにおいて教材の効果を体験するとともに、将来の適用の可能性について幅広く検討した。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生は、各ゼミナール9名を上限に、52名の学生を学籍番号順に6ゼミナールに配属した。2年生は、学生の希望調査に基づき、47名の学生のうち6名を上限にしてコース別に9ゼミナールに配属した。3年生は、学生の希望調査に基づき、60名の学生のうち7名を上限にして、15ゼミナールに配属した。</li> <li>・ 1月に3年生による卒業論文構想発表会を、2月に4年生による卒業論文発表会を実施した。どちらも対象学年だけではなく、下の学年の学生の参加を義務付け、学生の研究意欲の向上を図った。</li> <li>・ ゼミ連絡会は、3年生の5名が役員を務め、毎週金曜日の5校時に1年生から4年生までを対象とした交流会や学びの機会を提供した。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来の方法及び内容で研究室活動を実施することができた。学生間の親睦を深めることはもちろん、模擬保育を通じて全体の保育実践力の育成・向上にも役立てられた。また、研究室担当教員は個々の学生理解を深めるための個人面談を2年間で3回（以上）行った。特に、さまざまな相談事や就職活</li> </ul>	

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□学修ポートフォリオ(教職ポートフォリオ)の作成と活用</p> <p>学生自らが成長を記録し、どのように成長したかが実感できるようにする。また、記入項目の見直しや運用の改善を進める。</p>	<p>動・卒業研究指導等の学生指導・支援には個人面談以外でも頻繁に対応し、必要な場合は学科会議等で学生情報を共有し、対応・対策等に臨んだ。</p> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究室担当教員の指導のもと、実習と連動したテーマを設定し、2年生全員(休学者を除く)が期限内に卒業研究を提出した。また、各コースから1名ずつ計3名の代表者を選出し、代表者卒業研究発表会を実施した。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修ポートフォリオ機能が、教務システムCampus Squareに追加になったことに伴い、令和6(2024)年度からの新システムへの移行を可能とするよう、学修成果の可視化に必要な設定値を決めた。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学期にゼミナール担当教員の指導によってポートフォリオの作成を行った。ポートフォリオは、4年次後期の「教職実践演習」及び「保育・教職実践演習」の授業において活用した。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初年次教育「保育職基礎演習Ⅰ」の中で、ポートフォリオにおいて、半期毎の目標設定と達成度の確認を行い、「めざす保育者像」に向けて学生個々が意欲的・主体的に考え行動できる環境づくりと学生指導を徹底した。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修ポートフォリオとして「学びの歩み」を作成し、就職活動時の自己分析等にも活用した。2年間の学びをファイルして、学位記授与式に学生へ配付した。</li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□学修到達度の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学修到達度調査」の実施。</li> </ul> <p>□学修成果の可視化</p> <p>学修成果の可視化を実施するためにCampus Squareに学修ポートフォリオ機能を追加し、運用する。</p> <p>□「卒業論文要約集」等の印刷・配布、「学位論文」の製本・配架</p> <p>□研究会へ参加し、正課内での学修を生かして発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中四国保育学生研究大会</li> </ul> <p>□各種実習・研修の実施</p> <p>免許・資格取得に必要な実習及び各履修コースに応じ</p>	<p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生には、各学生の受講科目の成績に基づいて作成した「6つの力」をレーダーチャート化して配布し、学修到達度を理解させた。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半期毎の成績通知の際、もしくは再試験の結果が出る成績確認の際に、学修成果獲得レーダーチャートとしてまとめた。</li> <li>・教務システムCampus Squareに学修ポートフォリオ機能を追加し、令和6（2024）年度より運用を開始できるように、各学部・学科へ項目の設定を依頼し、教務課で教務システムCampus Squareに登録を行った。</li> <li>・経営学部では「卒業論文要約集」、発達科学部では「卒業論文要旨集」を印刷し、卒業予定者に配布した。また、発達科学部においては、卒業予定者だけでなく、在学生全員に卒業論文要旨集を配布して研究成果の普及を図るとともに在学生の学びに活用できた。保育学科では卒業研究を製本し、学位記授与式の日各学生に配布、秘書科では学習ポートフォリオ「学びの歩み」に2年間の学びとともに卒業研究をファイルして、学位記授与式の日各学生に配布した。</li> </ul> <p>(発達科学部・保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県において開催された中四国保育学生研究大会に、発達科学部教員1名、学生4名、保育学科教員2名、学生5名が参加した。また、発達科学部の学生2名が「障がいの重い子どもとのコミュニケーションにおける関わり手の役割」、「就学前施設における外国籍等の子どもと保護者への支援」をテーマに研究発表を行った。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の「インターンシップⅠ」及び「インターンシップⅢ」</li> </ul>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>た実習・研修を実施することで、学びを深めるとともにコミュニケーション能力や自ら課題を解決できる力を養う。また、必要に応じ実習先の開拓を行う。</p> <p>□多様な学修内容の提供</p> <p>多様な勉学環境を提供するために、社会情勢(ウイズコロナ、Society 5.0等)を反映した講義科目(内容)への改善と、アクティブ・ラーニング等を取り入れた講義法への見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化に対応した新規科目の検討</li> <li>・アクティブ・ラーニングの高度化</li> <li>・シラバス改善</li> </ul>	<p>は24名、後期の「インターンシップⅡ」は9名が参加し、無事に終了した。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者が前期・後期合せて6名であったが、感染症の5類移行後、関連団体との密接な連携等により、参加者の大幅増という成果が得られた。</p> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士資格・教員免許状取得に必要な実習を実施した。実習実施に関しては、多様な困難を示す学生が増えてきたので個別的な指導を強化した。また、実習先から実習成果について問題を指摘された学生については、個別に事後指導を行った。どの実習についても、実習対象学年のみならず下の学年の学生を出席させ、実習報告会を開催した。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部実習期間を変更したが、保育士資格・教員免許状取得のための条件を満たして実施することができた。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コースにおいて、学生のニーズにあわせた実習先を開拓し、2年生全員(休学者を除く)が実習を終了して、卒業研究としてまとめることができた。</li> </ul> <p>(経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニングについては、各教員が担当授業科目の内容に応じて、VR教材の新しい活用法の検討、地域の物産を販売するプロジェクト等を実施した。</li> <li>・キャリア教育については、見直したキャリア形成系科目の履修順序に基づき、教育を行った。</li> </ul> <p>(秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎演習Ⅱ」において、1年生に就職試験のSPI対策として、</li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修コースの開講科目の見直し</li> <li>・キャリア教育の充実</li> <li>□Society5.0に対応した人材育成 データサイエンス (ICTスキルや情報活用能力を含む) が活用できる人材の育成等を図る。</li> <li>・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル) への申請</li> <li>□在学期間をトータルに見通した指導の充実 (発達科学部・保育学科) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育・教職実践演習」、「教職実践演習」の実施</li> </ul> </li> <li>□ICTを活用した効果的な授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種著作物を使用した効果的な授業実施のための「一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会」(SARTRAS) への届出</li> <li>・デジタル教科書の活用</li> </ul> </li> </ul>	<p>eラーニング教材のラインズSPIを使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学において、数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル) の申請を行い、認定された。短期大学は、令和6 (2024) 年度の申請に向けて、数理・データサイエンス・AI科目の履修実績を作った。</li> </ul> <p>(発達科学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育・教職実践演習」、「教職実践演習」とともに、本学における保育者養成及び教員養成を総括する科目と位置付けて学習プログラムを構成し、実施した。</li> </ul> <p>(保育学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の「保育・教職実践演習」を計画通り実施した。保育者の倫理や危機管理、特別支援の在り方や社会人としてのマナーの確認、保育実践力向上のためのロールプレイと実地調査等、最終セメスタでの保育者になるための総まとめ授業となった。</li> <li>・Google Classroomを活用した双方向的な授業やオンデマンド形式の授業動画配信によるメディア授業を実施した。また、予習・復習となる時間外学習の課題を配信したり、その課題の提出・フィードバックの効率化を図ったり、学生意見集約のためのアンケート実施にも役立てた。また、保育学科では保育実習関係書類の一部デジタル化を試みた。</li> <li>・オンラインやオンデマンドの授業において、各種著作物を使用した効果的な授業を実施するため、「一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会」(SARTRAS) へ届出を行い、利用料を支払った。</li> <li>・ノートパソコンにデジタル教科書をインストールし、授業で</li> </ul>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□BYOD (Bring Your Own Device) の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BYODの導入に伴い、ICTを活用した授業方法の見直しを行う。</li> <li>・学生貸出用ノートパソコンの整備</li> </ul> <p>□学外活動の充実、外部講師の活用</p> <p>学内での学びを確実にするため、各授業科目の特性を活かし、学外での実習を通して問題解決能力を養ったり、学外講師から広い分野の知識を得たりする。</p> <p>□探究活動の実施 (保育学科)</p> <p>学生の自己分析 (強みと弱み、めざす保育者像) と、地域社会や保育業界の現状把握・課題を踏まえ、学生個人やグループが目標設定・計画立案した活動に取り組む。</p>	<p>使用できるようにした。令和5 (2023) 年度は「小学校英語」及び「英語指導法 I・II」など教科指導法の授業を中心に活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4 (2022) 年度に導入したMoodle (学習管理システム) を、学外アクセスが可能となるよう再構築した。</li> <li>・1年次後期開講の情報関連の演習科目で、持ち込みパソコンを使った授業が実施できるように、授業方法の見直しを行った。</li> <li>・令和5 (2023) 年度入学生より、BYODの導入に伴い、学生貸出用ノートパソコン40台を整備した。貸出実績は、ノートパソコンの故障に伴う理由で、経営学部1名と保育学科1名の計2名であった。</li> <li>・大学推奨ノートパソコンの購入が85台 (大学: 60台、短大: 25台) あった。</li> <li>・令和5 (2023) 年度末に常勤教員を対象にBYODを活用した授業について調査を行った。調査の結果をSociety5.0ワーキンググループで共有し、課題について検討した。</li> <li>・学内での学びを確実にするため、企業や教育・保育現場、卒業生などを学外講師として招き、現場に求められる知識などを身に付けることができた。</li> <li>・水曜日を探究活動日とし、初年次教育の「保育職基礎演習 I」と連動させ、主体的で協働的な探究活動に取り組めるようにした。その結果、保育や施設の補助ボランティアをはじめ、手作りおもちゃコンテストや親子遊びのイベント、制作ワークショップへの参加、ピアノの練習や保育教材づくり、夏休みの流しそうめん大会の企画運営など、学生が「自分のやり</li> </ul>	<p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□他大学との学生間交流 (秘書科)</p> <p>相互の大学を訪問し、自分の周囲の人々や地理、文化等を学び楽しむとともに郷土を改めて知り、さらに異なる地の風土等にも触れ、自ら考え行動できる能力と幅広い教養や、知識・技能を身に付けることを目的として学生間交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀短期大学 (医療事務コース)</li> </ul> <p>□ヒューマンITコース開設に伴う教育支援 (秘書科)</p> <p>令和6年度 (2年次配当科目) に開設するIT関連の科目、特にマルチメディア関連 (動画、画像関連) の授業を強化し、マルチメディアに強い人材を育成するための授業準備を行う。</p> <p>□マナー教育の充実</p> <p>秘書科においては、マナー教育の一環として、1週間に2回のスーツデーを実施する。</p> <p>□留学生の受入れ</p> <p>国際社会に貢献できる実践力を培うために留学生を積極的に受け入れ、学生間の交流を促進する。</p> <p>□学生の海外研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バンクーバーアイランド大学 (カナダ)</li> <li>・開南大学 (台湾)</li> </ul> <p>□学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等の実施</p>	<p>たいこと」に取り組むことができた。取り組み方の個人差が大きいことや活動内容の幅が広がりにくいなどの課題があり、次年度はその点を改善して取り組むことを検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事務コースの1年生8名が滋賀短期大学を訪問し、滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科総合医療事務コースの学生11名と交流を行った。</li> <li>・ヒューマンITコース開設 (令和5 (2023) 年4月) に伴う教育支援について検討を行い、令和6 (2024) 年度は、マルチメディア関連の授業を担当する非常勤講師と連携を取り、授業を実施することとなった。令和7 (2025) 年度は、再度学科の方向性を決めて、ヒューマンITコースのマルチメディア関連の授業を準備することとした。</li> <li>・前期、後期において週2回のスーツデーを実施した。</li> <li>・西安外事学院 (中華人民共和国) にて海外入試を実施し7名が受験したが、入学辞退のため海外からの受け入れは0名であった。</li> <li>・国内の日本語学校からベトナム2名、インドネシア1名、モンゴル1名の留学生を受け入れることができた。</li> <li>・令和元 (2019) 年度の実施以降4年振りに台湾コースとカナダコースの募集を行ったが、いずれも応募者がいなかった。</li> <li>・学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等を実施するた</li> </ul>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【7】全学的な教学マネジメント体制による教育の質の向上と教育IR機能の充実</p>	<p>・「履修ガイド(大学・短大)」の印刷・配布(新入生及び教職員は冊子体、2年生以上は電子媒体で配布)</p> <p>□教育理念・目的を3つの方針(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)に反映し、3つの方針を起点としたPDCAサイクルにより教育の質の向上を図る。</p>	<p>め「2023履修ガイド」を印刷し、新入生には冊子、在学生には電子媒体で配布した。また、オリエンテーションでは、学生便覧と履修ガイドを活用して、各学生の進路に応じた履修が確実にできるように履修指導等を行った。</p> <p>また、発達科学部では、履修ガイドの活用とともに、発達科学部履修指導マニュアルを学生に配布して、具体的かつ効果的な履修指導を実施した。加えて、学生の主体的な時間割作成を意識させるために、履修チェックシートで学生個々に履修に間違いがないかどうかをチェックさせた。</p> <p>・大学・短期大学設置基準の改正に伴い、令和6(2024)年度から、授業方法別に必要な授業時間数の基準を定めた規定を廃止することにより、様々な授業方法を組み合わせた授業科目の設定をより柔軟に行えるように学則変更を行った。また、大学全学共通科目の一部科目について、高松大学との連携開設科目として短期大学学生が受講できるように学則変更を行った。</p>	<p>IV</p>
<p>【8】学修成果の自己点検・評価と、その結果を踏まえた教育課程、教育方法等の改善・充実等</p>	<p>□「学修成果の評価の方針」に従い、アセスメントを実施し、教育課程や教育方法等の改善・充実を図る。</p> <p>□学部レベルでのより高度な学修成果評価方法の検討(経営学部)</p> <p>3つの方針に基づき、学修成果の評価の仕方を「実態」に照らして検討し、シラバスの改善、カリキュラム・マップの見直し、ハニカム構造の見直し等を行って学部運営に反映する。</p> <p>□教職課程の自己点検・評価</p> <p>教職課程の自己点検・評価の実施が義務化されたこと</p>	<p>・短期大学の評価項目の見直しを行い、大学と統一した。次年度から、見直した評価項目に基づき、アセスメントを実施することとなった。</p> <p>・令和5(2023)年度より、新しいカリキュラムによる教育を開始した段階であり、実績を踏まえた成果を得るべく、カリキュラムマップ、ハニカム構造等の見直しを引き続き実施中である。</p> <p>・令和5(2023)年5月に令和4(2022)年度の教職課程自己点検・評価報告書を作成し、一般社団法人全国私立大学教職</p>	<p>III</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>に伴い、教職課程を実施するためのカリキュラムや教員組織、施設及び設備の状況等について自己点検・評価を行い、公表する。</p> <p><input type="checkbox"/>非常勤講師との「教育懇談会」の実施 非常勤講師と本学教員との教育懇談をすることにより、教育方針等を理解し合う。また、授業を担当して感じられた事、色々な意見を聞き、今後の教育に活かしていく。</p> <p><input type="checkbox"/>学生による授業評価や学生生活調査、満足度アンケート等の実施。アンケートの結果は、今後の授業改善や修学支援等への参考資料とする。</p> <p><input type="checkbox"/>大学・短期大学設置基準の改正に伴い、授業方法別に1単位に必要な授業時間数を定めていた規定が廃止され、様々な授業方法を組み合わせた授業科目の設定が可能となった。これに伴い、令和6年度からの学則変更やシラバスの様式を見直す。</p> <p><input type="checkbox"/>公開授業への参観や研究授業の実施</p>	<p>課程協会へ提出し、完了証が発行された。また、報告書と完了証を大学ホームページにて公表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に非常勤講師との「教育懇談会」を実施した。非常勤講師80名（集中講義、大学院の授業科目担当教員を除く）に案内し、20名の出席があった。懇談会では活発な意見、感想、要望が出され、充実した会となった。実施後は、教務委員会においてアンケート報告を行い、非常勤講師から寄せられた意見等を共有した。</li> <li>・アンケートシステムを利用して授業評価アンケートを実施した。前期の回答率は、講義・演習科目が61.9%、実習科目が57.2%、大学院が87.5%と例年並みであった。後期の回答率は、講義・演習科目が48.4%と悪く、実習科目は58.6%、大学院は85.7%と昨年度とほぼ同様であった。学生からの授業に関するコメントを含め、教員の授業改善の一助となった。</li> <li>・大学・短期大学設置基準の改正に伴い、授業方法別に1単位に必要な授業時間数についての学則変更を行い、令和6（2024）年度より適用できるように教務システムCampus Squareのシラバス様式の見直し等を行った。</li> <li>・研究授業を以下のとおり実施し、研究授業後の検討会においては研究授業に関する活発な議論が行われた。 (研究授業) 大 学 前期：労務管理論（経営学部教授 松繁寿和） 保育内容－表現Ⅰ（発達科学部准教授 佐々木啓祐） 後期：キャリア開発演習Ⅱ（経営学部教授 高塚順子） 教育心理学（発達科学部教授 横川和章）</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【9】研究科修士課程における「教育課程編成・実施の方針」に基づいた体系的な教育課程の編成及び適切な教育方法・履修指導の実施</p>	<input type="checkbox"/> Society5.0に対応した研修会の実施	<p>短期大学 前期：保育と教育のカリキュラム論（保育学科講師 佐々木利子、保育学科講師 有馬則子） 応用演習Ⅰ（秘書科講師 西岡達哉） 後期：保育原理Ⅰ（保育学科講師 相馬宗胤） グローバル実習事前事後演習（秘書科教授 上村秀樹）</p>	IV
	<input type="checkbox"/> ティーチング・ポートフォリオの導入の検討 ティーチング・ポートフォリオとして教員個人の教育業績を記録し、今後の教育改善等に活用する。そのために、ティーチング・ポートフォリオの内容や導入方法等について理解を深めるためのFD研修の実施や各学部・学科の代表教員（教務委員等）において試験的に導入して、課題の洗い出しを行う。	<p>・令和6（2024）年2月に、発達科学部の小学校教諭教職課程担当教員を対象として、「小学校教員養成教育におけるICT活用能力育成のための指導内容及び指導方法の習得」をテーマに研修会を実施し、11名が参加した。</p> <p>・FD研修会において、令和2（2020）年度研修会の「ティーチング・ポートフォリオ入門－教育実践のリフレクション」の振り返りを行い、メンター役の教員の役割が極めて重要であることについて、全学の共通認識が得られた。メンター役として各学部・学科の教務委員が候補となるが、メンター役の教員を養成するには、外部機関等を活用した別途研修が必要であり、試験的導入には至らなかった。</p>	III
	<input type="checkbox"/> 学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等の実施 ・「大学院履修要項等」の配布（再掲）	<p>・学生の主体的学習の促進及び適切な履修指導等を実施するため「2023履修ガイド」を印刷し、新入生には冊子、在学生には電子媒体で配布した。</p>	IV
	<input type="checkbox"/> Society5.0社会を見据えた大学院のカリキュラムの調査研究	<p>・Society5.0社会を見据え、他大学のカリキュラムなどを調査研究し、令和6（2024）年度から「デジタルトランスフォーメーション特論」、「情報セキュリティ特論」、「AI特論」を新規開講することとした。</p>	IV
	<input type="checkbox"/> 大学院における履修証明プログラムの導入の検討	<p>・履修証明プログラム（BPプログラム）を導入している近隣の大学院にその受入状況、課題等について照会したところ、導入はなかなか難しく、引き続き検討することとした。</p>	III

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	□大学院生の研究活動の推進と研究環境の整備	・本館5階の大学院502演習室の環境整備を行った。	Ⅲ
<b>5. 学生の受け入れ</b>	<p>高等学校教員を対象とした説明会の開催、本学教職員による高校訪問、オープンキャンパスの実施、入試広報等により入学者の確保に努めた。</p> <p>また、令和6年度の入学定員を見直したものの、その充足率は、経営学部97.1%、発達科学部74.3%、保育学科95.0%、ビジネスデザイン学科88.0%となり、いずれも入学定員を下回る厳しい結果となった。</p>		
【10】「入学者受け入れの方針」の周知及び入学希望者に求める能力を適切に判定することのできる入学者選抜方法の改善	<p>□大学・短期大学説明会の実施</p> <p>6月に本学で開催する高等学校教員を対象とした「大学・短期大学説明会」の実施内容の充実を行い、入学者受け入れの方針や入試概要等を説明する。</p> <p>□入学者選抜方法の改善・入試評価基準の見直し</p> <p>入学者や受験者の分析を行い、入学者選抜方法や入試評価基準（各入試区分の選抜方法及び観点別配点等）の改善・見直しを行う。</p>	<p>・6月に大学・短期大学説明会を四国と岡山県の高等学校に案内して開催し、33校37名の参加があった。</p> <p>各学部・学科の取り組み、就職支援、入試概要等の説明を行った。</p> <p>・入学者や受験者の分析を行い、入試評価基準（各入試区分の選考方法及び観点別配点等）の整合性を入試対策委員会に諮った。</p>	IV
【11】入学選抜試験の公正・適切な実施	<p>□入学者選抜試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の進学先（出願先）として、受験しやすい試験日や入試区分を調査し、次年度以降の入試日程を検討する。</li> <li>・学生募集要項等の作成</li> </ul> <p>入試制度を分かりやすく掲載した学生募集要項や、本学のPR用の案内チラシ等を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外試験の実施</li> </ul> <p>県外（岡山、広島、徳島、松山、高知）の高校生が受験しやすいように、学外試験を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン入試の実施</li> </ul> <p>筆記試験を伴わない入試区分で、オンライン入試を希望する県外在住者に対し実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の進学先（出願先）として、受験しやすい試験日や入試区分を高校訪問やオープンキャンパス等で聞き取り、次年度以降の入試日程を検討した。</li> <li>・学生募集要項を作成するにあたり、入試日程、選考方法や評価の方針を見開き頁に集約し、わかりやすく掲載した。また、入試のポイントを掲載したチラシを作成し、オープンキャンパス参加者、資料請求者、高等学校に配付した。</li> <li>・学外試験は、一般選抜（2月実施）を2会場（松山、高知）で実施した。</li> <li>・筆記試験を伴わない入試区分で、オンライン入試での受験者は3名で、希望者は減少傾向にある。</li> </ul> <p>令和5（2023）年度入試（令和4年度実施） 7名 令和4（2022）年度入試（令和3年度実施） 13名</p>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【12】 入学定員に基づいた適切な入学者数の受け入れ及び収容定員の適正な管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外入試の実施 学術交流協定校（西安外事学院、青島旅游学校、ジェンデラル・スデイルマン大学）で入学者選抜試験を実施する。</li> <li>□インターネット出願システムの導入 受験者数の増加を図るため、インターネット出願システムを導入する。</li> <li>□入学定員確保に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・学科の最重点校、重点校、開拓校に訪問し、それぞれの教育内容について説明する。</li> <li>・入学定員及び収容定員の充足率が80%未満の学部・学科について関係部局や運営会議（専門部会）でその原因と定員確保に向けた対策を検討する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術交流協定校で実施する海外入試については、西安外事学院から8名の出願があり、12月5、6日に実施した。青島旅游学校とジェンデラル・スデイルマン大学からの出願者はなかった。</li> <li>・インターネット出願システムについて、業者選定、検討を行ったが、引き続き、費用対効果等の観点から慎重に検討することとした。</li> <li>・香川県内の高校訪問時に、各学部・学科の教育内容について説明した。</li> <li>・入学定員充足率の低い学部・学科の入学定員を変更し、（発達科学部 80名→70名、経営学部 95名→105名、保育学科 80名→40名、ビジネスデザイン学科 70名→50名）学生募集を行った。</li> </ul> <p>令和6（2024）年度入学者数</p> <p>発達科学部 52名（入学定員 70名 充足率 74.3%）</p> <p>経営学部 102名（入学定員105名 充足率 97.1%）</p> <p>保育学科 38名（入学定員 40名 充足率 95.0%）</p> <p>ビジネスデザイン学科 44名（入学定員 50名 充足率 88.0%）</p>	<p>I</p> <p>III</p>
<p>【13】 各種相談会・ガイダンス、オープンキャンパス等の内容・広報の充実、高等学校・塾等への積極的な広報活動と大学案内等の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□オープンキャンパスの充実 オープンキャンパスの実施方法・内容について、感染対策を徹底し、対面型のオープンキャンパスを充実させる。また、「もう一度行きたいオープンキャンパス」をめざし、複数回の参加を促すような内容で実施する。さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスを全6回開催した。学生スタッフの起用、ランチの提供、付添者数の制限廃止等、コロナ禍以前のスタイルに戻して開催した。</li> </ul> <p>参加者数（延べ数）は、902名（昨年度946名）で、オープンキャンパス参加者の受験率は、全体で57.5%（昨年度59.7%）</p>	<p>III</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>らに、Webオープンキャンパスを実施する。</p> <p>□2025入学案内、2024入学案内別冊リーフレット、学園だより「かすが」の制作・配布、大学PR動画を制作しホームページ等での広報。</p> <p>□保育者をめざす高校生のための保育体験ツアー (保育学科) 県内高校生を中心に保育体験ができる機会を設け、保育者をめざす若者を育成し、保育学科に進学するきっかけを作る。また、保育体験の実施園である高松東幼稚園との連携強化を図る。</p> <p>□秘書科リーフレットの作成(資格・検定、コース説明) 秘書科の4つのコースで取得できる資格検定を説明したリーフレットやビジネス秘書コース、医療事務コース、グローバルビジネスコース、ヒューマンITコースのリーフレットを作成し、就職先企業への広報と高校訪問時に資料として持参し説明する。</p> <p>□入試広報 新聞、受験雑誌・Web等を活用した有効な広報活動を行う。また、出願期間に合わせたポスター掲出等を行う。 ・オープンキャンパス告知のためのCM 5月～7月にKSB、RNC、RSK、夏休み期間中に開</p>	<p>となった。</p> <p>また、在学生インタビュー動画を作成し、進学相談会等で紹介した。</p> <p>・2024入学案内を学生募集要項とともに高校生等に配布し、各学部・学科の学生インタビュー動画をホームページに公開した。令和7(2025)年度入学者募集用として、2025入学案内を制作するとともに、各学部・学科の学生のインタビュー動画を制作した。2024入学案内別冊リーフレット、学園だより「かすが」(6・9・3月発行)を制作し、JR高松駅やことでん瓦町駅のパンフレットラックへ配架するなどした。</p> <p>・認定こども園高松東幼稚園で保育に参加する午前の部と、読み聞かせやピアノなどの保育実技を体験する午後の部を選択・組み合わせ自由としたプログラムで、8月に8回実施した。高校生34名が参加し、うち高校3年生25名中19名(76.0%)が令和6(2024)年度入学した。また、3月には8月の保育体験ツアーに参加した高校1・2年生3名が手袋シアターづくりに参加した。</p> <p>・秘書科からビジネスデザイン学科に学科名称を変更すること等を広報するため、4コースを集約して掲載したリーフレット(4,500部)と医療機関配布用の医療事務コースのリーフレットを3,000部作成した。今回から歯科医院にも求人依頼とともに送付した。</p> <p>・オープンキャンパス開催に合わせた新聞広告や出願期間に合わせたポスター掲出を行った。</p> <p>・CM(ダンス「オープンキャンパスお知らせ」篇)を令和5(2023)年5・6・7月に48本(KSB、RNC、RSK)、7・8月に96本(RKC、RNB)、令和6(2024)年3月に58本(KSB、RNC、RSK、OHK、</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>催する7・8月については、高知県（RKC）と愛媛県（RNB）に放送。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学イメージ編、学部・学科紹介のためのCM</li> <li>・GPSターゲティング広告（スマートフォンの位置情報を用いたGPSターゲティング広告） マスコットキャラクター「たーちゃん」を活用し、印象に残るバナーを作成する。主にオープンキャンパス申込期間に合わせて配信期間を設定し、スマートフォンアプリにバナーを表示し本学HPへ誘導する。</li> <li>・新聞広告、受験雑誌・Webサイト、学生が参加する事業広告（むれ源平石あかり等）、カマタマーレ讃岐（横断幕広告）など。</li> <li>・JR高松駅、ことでん瓦町駅、ことでんバス車内放送、県営野球場グラウンドフェンスの広告を中心とする屋外広告</li> <li>・ホームページ、公式YouTube、Facebook、ブログ、入学センター公式Instagram、LINEによる情報発信</li> </ul> <p>□高等学校への派遣事業</p> <p>教員による出張講義、学部・学科説明、分野別模擬授業への講師派遣、高等学校との連携教育を積極的に行う。また、オンラインガイダンスにも参加する。</p> <p>□高校訪問</p> <p>香川県内や近隣の県の高校を中心に本学の情報提供の充実を図るとともに、最重点校、重点校、開拓校別に</p>	<p>TSC、RNB）放送した。</p> <p>（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CM（たーちゃん「対話と実践」が未来を拓く篇）を令和5（2023）年9・10・11・12月に206本（KSB、RNC、RSK、OHK、TSC、RNB）放送した。</li> <li>・スマートフォンの位置情報を活用し、オープンキャンパスの開催に合わせて6期間を設定（5・6・7・8・9・3月）し、スマートフォンアプリに広告を掲出した。</li> <li>・新聞広告、学生が参加する事業広告、カマタマーレ讃岐への横断幕広告などを掲出した。</li> <li>・JR高松駅、ことでん瓦町駅、ことでんバス車内放送、県営野球場グラウンドフェンスへ屋外広告を掲出した。</li> <li>・公式のホームページ、YouTube、Facebook、ブログ、入学センター公式のInstagram、LINEによる情報発信を行った。令和6（2024）年3月に、ホームページのサーバー移行とサイトリニューアルを行った。</li> </ul> <p>・高校単独開催や会場形式による各種進学相談会等に出席し、本学の案内・説明を行った。学生確保に有効な模擬授業・体験授業等の出前講義には各学部・学科と連携をとり、「専門教員による分野別説明・模擬授業」（72回）、「教職員による進学相談会」（33回）に参加した。（オンライン形式を含む）</p> <p>・高校訪問は、香川県内により重点を置き、東地区、西地区に分けて2名体制で、オープンキャンパスの案内や入試出願の案内等を行った。在学生の出身高校など、学生募集活動とし</p>	<p></p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>丁寧に対応していく。また、在学生の出身高校、オープンキャンパス参加者の在籍高校など、入学希望者が見込める高等学校には重点的に訪問し、情報提供を行う。</p> <p>□県内大学合同説明会への積極的な参加 香川県及び県内大学・短期大学・高等専門学校で構成している大学・地域共創プラットフォーム香川が実施する合同進学説明会に各学部・学科の協力を得て、積極的に参加する。</p> <p>□同窓会を活用した募集活動 同窓会報の発行や総会・部会の機会を利用した大学情報・入試情報を提供する。</p> <p>□大学見学の受入れ 高校と連携して、少人数での見学についても積極的に受け入れる。また、個別に大学見学の要望があれば、随時受け入れる。</p> <p>□高等学校との連携事業・高大接続 ・かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテスト ・たーちゃん絵本ひろば ・チアダンスステージin高松大学・高松短期大学</p>	<p>て有効な地区を重点的に年間5～6回訪問した。 また、岡山県、徳島県、愛媛県、高知県、沖縄県の高校も重点校を絞り、訪問した。 (秘書科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5（2023）年度は香川県内29校、愛媛県1校を訪問し、学科名称変更等について周知した。</li> <li>・大学・地域共創プラットフォーム香川が主催する県内大学等合同説明会が3校（小豆島中央、高松東、香川中央）で開催されたことに伴い、各学部・学科の協力を得て、参加した。</li> <li>・受験生の2親等以内に本学卒業生又は在生がいる場合、申し出により入学検定料を免除する制度に、令和6（2024）年度入試では31名（昨年度31名）からの申請があった。</li> <li>・学校単位の大学見学受入れ3校（高松支援学校、フューチャーデザイン日本語学校、香川県立琴平高等学校）を行い、大学・短大の概要説明、学部説明・分野説明、在学生からのキャンパスライフ紹介、施設見学等を行った。</li> <li>・香川県高等学校教育研究会商業部会と本学大学院ベンチャークリエーション研究所共催の「第19回かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテスト」を開催し、5校5チーム（高松商業、坂出商業、志度、三木、高松中央）の参加があった。</li> <li>・大学祭第1日目に午前、午後で各1回、たーちゃん絵本ひろばのクラブ部員によるミニイベントを開催した。 午前（11：00～11：30）参加者：子ども8名、大人6名 午後（14：00～14：30）参加者：子ども16名、大人16名</li> <li>・令和5（2023）年12月に、コロナ禍を経て4年振りに第3回となる「チアダンス in 高松大学・高松短期大学」を開催し、</li> </ul>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
【14】 学術交流協定の締結による留学生の受け入れと受け入れ環境の整備	□季節行事の実施（七夕、クリスマス）	5校（高松北、高松工芸、高松南、高松西、藤井学園寒川）の参加があった。 ・令和5（2023）年6月に発達科学部と保育学科の学生による七夕飾り、12月に企画課で本館1階ホール等にクリスマスツリーを設置し、季節行事を実施した。	IV
	□卓上カレンダー制作、学園グッズ製作・売店販売等	・2024年度卓上カレンダーを制作し、教職員、関係機関等に配布した。学園グッズ（シャープペンシル、コットンバッグ）を製作し、各種行事等での配布や売店での販売を行った。	IV
	□国際交流の推進 ・海外の交流協定大学との交流を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の国際交流活動等を行った。</li> <li>・令和5（2023）年6月に、中華人民共和国駐大阪総領事ほか4名が来学し、本学のこれまでの国際交流や留学生受入状況等を説明し、これからの交流に向けて意見交換等を行った。</li> <li>・留学生対象の入学者選抜試験が全学部・学科となったことを受け、ジェンデラル・ステイルマン大学（インドネシア）との交流協定書（案）を作成し、大学間交流協定及び学部間交流協定の更新に向けて検討した。</li> <li>・学術交流協定校である「西安外事学院」、「開南大学」から交換留学生の募集依頼を受け、「高松大学・高松短期大学交換留学に関する規程」を制定し、交換留学生の派遣及び受入体制を整備したが、応募者はいなかった。</li> <li>・南昌市（中華人民共和国）への青年訪問団派遣事業に経営学部3名、発達科学部2名、秘書科2名の学生を派遣した。</li> <li>・開南大学の教員によるオンライン授業を受講（秘書科グローバルビジネスコース）</li> <li>・開南大学とのオンライン学生交流会（秘書科グローバル</li> </ul>	III

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□留学生支援</p> <p>受け入れ環境を整備し交流を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業料等の減免</li> <li>・留学生歓迎会</li> <li>・学生研修旅行</li> <li>・留学生住宅支援</li> <li>・留学生在留管理</li> </ul>	<p>ビジネスコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山東省（中華人民共和国）への公益財団法人日本中国友好協会派遣事業に経営学部2名、発達科学部1名の学生を派遣した。</li> <li>・台湾での「グローバル研修」に学生13名、教員2名が参加した（秘書科グローバルビジネスコース）</li> <li>・海外研修等座談会 令和6（2024）年2月、派遣事業及び研修参加者により、海外研修等座談会を開催し、研修先での交流の内容、印象に残ったこと、今後に生かしたいことなどについての発表があり、学生5名、教員6名の参加があった。</li> <li>・高松市立古高松小学校とナミビア共和国のウバセン小学校とのオンライン交流に発達科学部の学生1名が参加した。</li> <li>・経済的な事由で就学が困難な留学生の経済的負担を軽減し、勉学・研究に支障がないよう、関係規程等に基づき15名に授業料減免を行った。</li> <li>・オリエンテーション時に留学生説明会を開催し、留学生生活ガイドブックを配布して、充実した留学生活を送るためのルールや手続き等についての説明を行った。</li> <li>・学生同士の交流を深めることを目的に、学生研修旅行（東かがわ市）を実施し、11名（うち留学生10名）の参加があった。</li> <li>・日本の正月を体験し日本文化を理解するために留学生新年交流会を実施し、学生14名（うち留学生7名）の参加があった。</li> </ul>	IV
6. 教員・教員組織	<p>教員間における授業時間数の平準化を図り、研究活動を活性化するため、必要に応じて非常勤講師を配置するなどして、各教員の授業担当コマ数を原則として14コマとし、教育研究環境の整備に努めた。</p>		



中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【17】研究紀要への論文の投稿の奨励及び研究紀要編集委員会における審議等</p> <p>【18】教員の教育研究活動等の実績・成果についての全学的な評価システムによる評価の実施及び学生の授業評価による優秀教員の表彰等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD活動推進委員会での研修会等の検討、実施</li> <li>・オンデマンド形式で受講できる研修プログラム「e-JINZAI for university」の導入・活用</li> </ul> <p>□大学院のFD研修会の実施</p> <p>□研究紀要への論文投稿の奨励と研究成果の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要第80・81号の作成及びWeb上で公開</li> <li>・クラウドサービスへの参加により、機関リポジトリとして紀要を発信し、情報を共有・交換</li> </ul> <p>□教員の教育研究活動等の評価・表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の教育研究活動等については、教育、研究、大学運営、社会貢献活動の4つの観点で評価することとしており、教員面談方法の見直しを踏まえ、具体的な評価項目や評価基準について、他大学の実施例も参考にしながら、公平性や納得性に留意しつつ検討を行う。</li> <li>・事務職員については、人事考課制度の実施状況を踏</li> </ul>	<p>全教員を対象とした「ティーチング・ポートフォリオ導入と作成」研修を対面で実施し、42名が参加、15名が動画視聴により研修を行った。</p> <p>(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6（2024）年2月に、発達科学部の小学校教諭教職課程担当教員を対象として、「小学校教員養成教育におけるICT活用能力育成のための指導内容及び指導方法の習得」をテーマに研修会を実施し、11名が参加した。</li> <li>・令和5（2023）年9月から令和6（2024）年2月までの間に、オンデマンド形式受講プログラム「e-JINZAI for university」を活用し、29名のアクセスがあり、21名がアンケート、23名が受講証明書を提出した。</li> <li>・学事日程等の都合により日程調整が難しく、今年度の実施は見送ったが、他の大学院等も参考に、次年度の実施に向けて検討することとした。</li> <li>・研究紀要第80、81号の発行及びWeb上に公開した。 研究紀要第80号 原著論文3、研究ノート6 研究紀要第81号 原著論文3、研究ノート1</li> <li>・研究紀要第80、81号を機関リポジトリとしてクラウドサービス（Jairo Cloud）に公開した。</li> <li>・教員評価については、教員が自らの教育・研究活動を振り返り、活動の改善のために実施できるよう、教育、研究、大学運営、社会貢献活動の4つの観点で、具体的な評価項目及び評価基準等について検討を進めた。また、事務職員を対象とした人事評価制度については、令和4（2022）年度同様に実施した。</li> <li>・令和4（2022）年度実施の学生の授業評価による優秀教員を令和5（2023）年5月に大学、大学院、短期大学、各1名を</li> </ul>	<p>II</p> <p>III</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>まえ、その目的である職員の能力や意欲を高めるための制度となるよう改善を検討する。</p> <p>・学生による授業評価の優秀教員（大学・大学院・短期大学各1名）を表彰し、教員教育研究経費を増額する。</p>	<p>表彰し、教員教育研究費の増額を行った。</p> <p>大 学：発達科学部講師 藤本駿 大 学 院：経営学部教授 松繁寿和 短期大学：保育学科助教 森本将行</p>	
<p><b>7. 学生支援</b></p>	<p>修学支援では、ゼミナール・研究室担当教員が個人面談を実施し、相談事や就職活動等の学生指導・支援を行うとともに、学生学修支援室において、障害のある学生の支援を行った。また、本学の奨学制度により奨学金を給付又は授業料を減免するほか、経済的負担の軽減を図るため、国の修学支援新制度により授業料等の減免や給付型奨学金を支給した。</p> <p>生活支援では、サークル・クラブ活動等の課外活動への支援を行うほか、大学祭についてはコロナ禍以前の開催方法で実施するとともに、各種の大学行事を通じた学生の交流を推進した。また、学生の心のケアを充実するため臨床心理士によるカウンセリングを実施した。</p> <p>進路支援では、ゼミナール・研究室担当教員とキャリア支援課、キャリアカウンセラーが緊密に連携を取りながら就職支援に努めた結果、ほぼ前年度並みの就職率を達成することができた。</p>		
<p><b>【19】</b> 学生に対する修学・生活・進路（就職活動等）を総合的に支援する環境の整備と適切な学生支援の実施</p>	<p>学部・学科教員、ゼミナール・研究室担当教員と学生支援部各課の連携により、学生の情報を共有し、きめ細やかな支援を行う。</p> <p>また、エンロールメント・マネジメントを効果的・効率的に行うために、学生支援体制について、学生支援センターとしての機能を果たせるようその充実を図る。</p> <p>①修学支援</p> <p><input type="checkbox"/>個人面談の実施</p> <p><input type="checkbox"/>円滑な大学生活への導入支援（新入生配付用資料作成）</p> <p><input type="checkbox"/>地域社会に奉仕する学生の支援</p>	<p>・ゼミナール・研究室担当教員は個々の学生理解を深めるために個人面談を実施し、相談事や就職活動等の学生指導・支援を行った。また、学部会議・学科会議等で学生情報を共有した。</p> <p>・新入生を対象に「新入生へのメッセージ（大明出版発行）」の冊子等を配布し、オリエンテーションで説明を行った。</p> <p>・マナーアップ週間（年8回）では、4月と10月に朝の立哨指</p>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>



中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□大学行事を通じた学生の交流の推進と事業の活性化を図る。(高松まつり、大学祭、定期演奏会、ふれあいコンサート、海外研修、卒業パーティーなど)</p> <p>□学生相談の充実            大学生活相談、心身の健康相談や就職活動・進学サポートなどを総合的に支援できる学生相談体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談室の運営</li> <li>・研修会の実施</li> <li>・研修会への参加</li> <li>・カウンセラーの配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西館3階の多目的ルームを整備し、新たに活動場所として貸出しを行った。</li> <li>・高松まつりは、参加者の募集を行ったが希望者が少なく出場人数に満たなかったため参加を見送った。</li> <li>・大学祭は、コロナ禍以前の開催方法により2日間実施し、学生が主体的に日頃の教育諸活動の成果等を学内外に公開することができた。</li> <li>・定期演奏会は、11月にコロナ禍以前の開催方法により実施した。</li> <li>・卒業パーティーは、実施スタイルを見直し5年振りに開催した。また、発達科学部では、ゼミ連絡会の役員となっている学生が中心となって、発達科学部独自の卒業パーティーを開催した。</li> <li>・人間関係等で不安を抱える学生へのメンタルヘルスケアとして、定期的に学外の臨床心理士による学生相談を開室し(毎週木曜日)、予防的カウンセリングによる早期の回復に取り組んだ。利用人数は5名で、延べ27回の相談があった。</li> <li>・学内の学生相談室員への相談は、大学生が27名で延べ70回、短期大学生が5名で延べ8回であった(昨年度は大学生が23名で延べ45回、短期大学生が5名で延べ11回)。</li> <li>・学生相談室において「構成的グループ・エンカウンター」のワークショップを開催し、対人関係に問題等を抱えている学生の学生生活への不適應の予防と改善に取り組んだ。</li> <li>・カウンセリングの知識及びスキル等を学び、学生同士の相互ヘルプを支援することを目的に、ピアヘルピング講座及びピアヘルパー認定試験を実施し、発達科学部の学生10名(1年1名、2年2名、3年7名)が講座を受講し、全員が認定試</li> </ul>	<p>III</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□学生の健康促進（健康診断、講演会の実施）</p> <p>□保護者教育懇談会の実施（本学、愛媛）</p> <p>□ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対する適切な対処とハラスメント防止のためのポケットガイドの配布</p> <p>③就職支援</p> <p>□「Career Note」、「面接対策」、「履歴書」の作成・配布スケジュール管理や自己分析から内定、内定後の報告及びお礼等までの就職活動に必要な内容を盛り込んだ「Career Note」や「面接対策」等を作成し、就職活動に活用する。</p> <p>□進路（就職）相談票による希望調査</p>	<p>験に合格した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月のオリエンテーション時に学生健康診断を実施したほか、月に一度、医師による健康相談を実施した。</li> <li>・香川県の令和5年度人権啓発活動地方委託事業により、「DV予防啓発講演会」の動画を視聴した。</li> <li>・9月にゼミナール・研究室担当教員による個別懇談を実施した。また、学生支援部職員による相談ブースを設置して保護者からの相談に対応した。</li> </ul> <p>案内 大学654名、短大170名 (留学生、大学院生、休学者を除く)</p> <p>参加者 大学 75名 (11.5%)、短大 7名 (4.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月のオリエンテーション資料としてポケットガイドを同封し、学生相談室のオリエンテーションの際に、ハラスメントに対する本学の取り組み等の説明を行った。</li> <li>・大学3年生には、前期成績通知時に各ゼミナール担当教員から、秘書科1年生は10月の就職ガイダンス、保育学科は2年生の4月のガイダンスでキャリア支援課からそれぞれ「Career Note」、「面接対策」を配付し、就職活動に関する注意事項を周知徹底した。</li> <li>・履歴書が必要な学生に対して応募先を確認し、キャリア支援課窓口において、本学指定の履歴書を無料で配付した。また、企業から履歴書を紙媒体からファイルで提出してほしい旨の要望が増えたことにより、学生から申し出があった場合は、学生個人宛のGmailアドレスへ様式（データ）を提供した。</li> <li>・進路（就職）相談票を配布し、就職、進学等の進路希望を調査した。また、それに基づき、企業、病院、幼稚園・保育所・こども園等から受け付けた求人のあっせんをした。</li> </ul>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□キャリアカウンセラーによる個別指導（履歴書作成支援、面接対策）</p> <p>□就職ガイダンス（セミナー、学内企業説明会等）の企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアカウンセラーによる就活スタートアップ講座</li> <li>・キャリアカウンセラーによる就職ガイダンス</li> <li>・セミナー、学内企業説明会、卒業生懇談会 など</li> </ul> <p>□教職をめざす学生の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職支援室の運営</li> <li>・公務員試験、教員採用試験対策</li> <li>・対策講座、模擬試験の実施</li> <li>・教員採用試験説明会の学内開催（香川県、岡山県他）</li> </ul>	<p>・毎週月曜日から金曜日までキャリアカウンセラーを配置し、キャリア支援課がキャリアカウンセラー、ゼミナール・研究室担当教員と連携を取りながら、履歴書作成、面接対策などの支援を行い、下記の就職率を達成した。</p> <p>経営学部 98.9%</p> <p>発達科学部 100.0%</p> <p>保育学科 100.0%</p> <p>秘書科 97.5%</p> <p>・大学3年生、短期大学1年生を対象に、就職ガイダンス（セミナー、模擬試験、対策講座、学内企業説明会等）を実施し、大学は延べ512名、短期大学は延べ375名の参加があった。</p> <p>・教職支援室では、発達科学部は「保育職」、「小学校教員」、「特別支援学校教員」、経営学部は「高等学校教員」、保育学科は「保育職」をめざす学生に対して、面接指導やガイダンスの開催、公立幼稚園・保育所等の公務員講座や教員採用試験対策講座、模擬試験の実施、採用試験対策のための授業科目を開設するなど、それぞれの教職の特性に沿った内容で支援を実施した。その結果、教育職・保育職等についての割合は、発達科学部78.8%、保育学科87.0%であった。</p> <p>・小学校教員、公立幼稚園・保育所を含む公務員希望者を対象とする資質能力向上プログラムを実施した。その結果、県内外で下記の合格者数であった。</p> <p>発達科学部 16名</p> <p>小学校 7名 香川県 3名</p>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価																																	
	<p>□「二十四の瞳」学習支援体験推進プログラム（進路及び就職支援）</p> <p>園児の遊びや小学生の学習を支援したり教員の補助をするなど、実際に現場体験をすることで、教員を志す気持ちを再認識し、今後の学びに対しての意欲の向上につなげる。また、県内の歴史や風土、文化財などを学ぶことで香川県の魅力を知り、県内での就職へつなげる。</p> <p>□検定・資格取得の支援</p> <p>入学前から、検定、資格を多く取得することを意識付け、キャリア形成の一環として資格取得、検定合格に向け、対策講座を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リテールマーケティング(販売士)検定3級</li> <li>・ファイナンシャル・プランニング技能検定3級</li> </ul>	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 150px;"></td> <td>高知県</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>東京都</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>2名</td> <td>愛媛県 1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>徳島県 1名</td> </tr> <tr> <td>幼稚園</td> <td>4名</td> <td>高松市 2名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>三木町 1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>多度津町 1名</td> </tr> <tr> <td>認定こども園</td> <td>3名</td> <td>高松市 2名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>吉野川市 1名</td> </tr> <tr> <td>保育学科</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>認定こども園</td> <td></td> <td>東かがわ市 1名</td> </tr> </table> <p>・「二十四の瞳」学習支援体験推進プログラムは、小豆島の保育所・幼稚園・認定こども園や小学校で、保育補助や学習支援の活動を行うボランティア活動として実施することとしていた。しかしながら、実施予定の施設と本学の行事予定等の関係から日程調整ができなかったために実施には至らなかった。</p> <p>・授業に関連した数多くの検定試験を実施し、実務的評価が高く就職にも有利な資格の取得を支援した。本学を会場として受験できる試験も多数あり、多くの学生が簿記検定や秘書検定、パソコン関連などの資格取得にチャレンジした。また、課外講座において、リテールマーケティング（販売士）検定3級は2月に実施し、2名の参加があった。ファイナンシャル・プランニング技能検定3級は、申込最低人数（10名）に満たなかったため、開講できなかった。</p> <p>（主な検定合格）</p> <p>経営学部：日商簿記2級 1名他</p>		高知県	3名		東京都	1名	特別支援学校	2名	愛媛県 1名			徳島県 1名	幼稚園	4名	高松市 2名			三木町 1名			多度津町 1名	認定こども園	3名	高松市 2名			吉野川市 1名	保育学科	1名		認定こども園		東かがわ市 1名	<p>I</p> <p>III</p>
	高知県	3名																																		
	東京都	1名																																		
特別支援学校	2名	愛媛県 1名																																		
		徳島県 1名																																		
幼稚園	4名	高松市 2名																																		
		三木町 1名																																		
		多度津町 1名																																		
認定こども園	3名	高松市 2名																																		
		吉野川市 1名																																		
保育学科	1名																																			
認定こども園		東かがわ市 1名																																		

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□アクセシビリティリーダーの育成 アクセシビリティリーダー育成協議会の教材や認定試験等の育成プログラムを利用し、個人や社会、環境や状況の多様性をよく理解し、アクセシビリティの推進により可能性を開拓できる人材を育成する。</p> <p>□キャリア形成支援専門部会の開催 各学部・学科のキャリア担当教員とキャリア支援課とが毎月会議を開き、一人ひとりの就職活動について情報を共有し、就職支援を行う。</p> <p>□卒業生に関するアンケートの実施 就職先からの卒業生に対する評価を踏まえ、今後の就職支援と授業内容を改善する。</p> <p>□求人開拓</p> <p>□インターンシップ先の開拓等の連携、支援</p>	<p>秘書科：秘書技能検定準1級 3名他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Google Classroomを活用し、オンデマンド形式による資格の概要、受験の説明会の実施をした。アクセシビリティリーダー2級の受験者は6名で3名が合格した(合格率50.0%)。また、1級認定試験の受験資格として必要となる養成講座及び受験対策講座を12月に実施し、2名が受験し両名とも合格(合格率100%)した。</li> <li>キャリア形成支援専門部会をほぼ毎月1回のペースで開催し、学生一人ひとりの就職活動の状況等を確認するとともに、就職関連情報の共有を図った。また、各種機関や企業の実施する説明会等について情報の提供を行った。</li> <li>卒業生の就職先で、卒業生が職場でどのように評価されているかを知り、また、本学の教育に対する忌憚のない意見・要望を伺い、本学の教育の改善に役立てる目的として、令和3(2021)年度卒業生の就職先(卒業後1年を経過した者)に対し、アンケートを実施した。回収率は経営学部57.1%、発達科学部69.1%、保育学科74.3%、秘書科56.7%であった。回収後、回答データを集計し、各学部・学科の意見を集約した上で、集計結果報告書をキャリア形成支援専門部会、学生委員会で報告後、スケジュールボード、ホームページに公表した。なお、冊子については、大学各学部長、短期大学各学科学長、研究科長に配布した。</li> <li>各学部・学科の特性に合わせ、求人及びインターンシップの開拓を行った。 (幼稚園・保育所・認定こども園) 学部・学科の教員が実習先訪問の際、求人について依頼し、5月中旬、県内の幼稚園・保育所・認定こども園約130</li> </ul>	<p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p data-bbox="600 1134 1028 1161">□関連機関との連携、学外会議の参加</p> <p data-bbox="600 1401 1034 1428">□就職資料室の充実（就職関連図書等）</p>	<p data-bbox="1308 248 1968 323">園（所）に求人依頼の文書を入学案内（別冊）とともに郵送した。</p> <p data-bbox="1308 339 1424 367">(医療機関)</p> <p data-bbox="1308 383 1968 852">3月下旬、県内を中心に約1,400医療機関（病院、歯科、調剤薬局）に求人依頼の文書を郵送した。また、秘書科実習担当教員が実習先（特に学生が希望する機関）に直接求人を依頼した。さらに秘書科の医療事務コースを広く県内の医療機関に知ってもらうために、医療事務コースのリーフレットを3,000部作成し、県内の医療機関（香川県歯科医師会と協定を締結したことにより歯科医院についても送付）約1,500か所に求人票とともに送付した。また、「香川県医師会誌（年2回：4月・12月）」と「高松市医師会報（年4回：4月・7月・10月・1月）」に医療事務コースの広告を掲載した。</p> <p data-bbox="1308 868 1375 895">(企業)</p> <p data-bbox="1308 911 1968 1118">1月下旬、県内を中心に約1,000事業所に求人依頼の文書を入学案内（別冊）とともに郵送した。また、求人依頼に來られた企業にエリア採用の有無を確認し、県外就職を希望する学生に紹介した。合わせて、留学生の採用の有無について確認し、該当する留学生に紹介した。</p> <p data-bbox="1274 1134 1968 1382">・8月下旬、日本私立大学協会中国・四国支部主催「日本私立大学協会中国・四国支部就職部課長相当者分科会」、11月上旬、香川県主催「大学キャリアセンター等と香川県内企業との情報交換会」、12月中旬、香川労働局主催「香川新卒者等人財確保推進本部連絡会議」に参加し、企業や他大学等の関連機関と就職状況を共有するなど、連携を図った。</p> <p data-bbox="1274 1398 1968 1473">・卒業生が記録した就職活動報告書、就職関連図書等、就職活動に必要な資料を配架した。また、パソコンコーナーで、イ</p>	<p data-bbox="2036 1134 2069 1161">IV</p> <p data-bbox="2036 1398 2069 1425">IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>④特別な配慮を要する学生への支援</p> <p>□障害のある学生支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生学修支援室の運営</li> <li>・SA等を活用した障害学生支援</li> </ul> <p>□障害学生の就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会参加引率、ケース会議出席等</li> </ul> <p>⑤同窓会との連携</p>	<p>インターネットを通じて就職支援システムに登録した求人票を検索・閲覧したり、就職情報サイトからエントリーすることができるほか、オンラインでの就職活動を支援するための専用ブースを設置するなど、環境を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアカウンセリングについては、キャリアカウンセラーが就職資料室において常駐し、スムーズに対応できるよう個別相談のブースを設置した。</li> <li>・キャリア支援課前の掲示板を改修し、合同企業・学内企業説明会、検定試験などの情報提供を行った。</li> </ul> <p>・「障害のある学生支援規程」及び「障害のある学生支援について(申し合せ)」に基づき、学生から提出のあった配慮申請書により、学生と配慮内容の合意を経て、大学生12名について配慮を行った。配慮内容については関係授業担当教員へ「障がい学生の受講に関するお願い」を手交し、協力を依頼した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「発達障害アセスメント(MSPA)研修」、「広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウム」等に計5回、教員1名が参加した。</li> <li>・障害学習支援でのSA制度の利用はなかったが、修学支援用のパソコン等を貸出し、支援を行った。</li> </ul> <p>・キャリア支援課と各学部・学科及び学生学修支援室が連携し、障害のある学生の就職支援を行った。また、就労支援機関を招いて、学生本人、ゼミナール・研究室担当教員同席のもと、ケース会議(特性に応じた働き方への助言等)を行った。なお、障害学生の説明会への引率は2回、ケース会議には6回出席した。</p>	<p>IV</p> <p>IV</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<input type="checkbox"/> 同窓会との連携 同窓会の組織運営、活動を適切に支援する <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生のネットワークを構築する</li> <li>・本学ホームページの卒業生サイトの拡充</li> <li>・卒業生アンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートシステムを利用し、令和4（2022）年度卒業生へのアンケートを実施した。併せて、大学祭や同窓会活動等で来学した卒業生へ、学生課窓口でアンケート回答への協力を依頼した。集計後は学生委員会で各学部・学科の意見を集約した上で、冊子として取り纏める。（令和6（2024）年4月予定）</li> </ul>	II
<b>8. 教育研究等環境</b>	<p>アクティブラーニングを推進するため、本館の多目的ホールや各講義室のデジタル化やプロジェクター整備、講義を収録するためのカメラの設置など計画的に行った。また、体育館トイレの改修や段差解消、スロープの設置などバリアフリーに配慮した整備を行った。科学研究費については、教授会や個別面談等の機会を捉えて申請を促した結果、2名2件の新規申請（前年度新規申請1名1件）があり、教員教育研究経費を増額した。また、1名が企業から研究助成金を受けた。</p> <p>研究紀要への論文投稿は、第80号が原著論文3、研究ノート6、第81号が原著論文3、研究ノート1であり、この研究紀要をクラウドサービス（Jairo Cloud）機関リポジトリとしてWeb上に公開した。</p>		
【20】 教育研究組織の整備・充実に配慮した計画的な施設・設備の整備	<input type="checkbox"/> バリアフリーに配慮した施設・設備の改修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館トイレ等改修（バリアフリー化）工事</li> </ul> <input type="checkbox"/> 老朽化並びにアクティブ・ラーニング推進のための施設・設備の改修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生会館修繕工事（LED化を含む）等</li> <li>・教室環境整備（本館多目的ホール、本館201、202講義室デジタル化、プロジェクター整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館トイレ等段差改修（障害者トイレの増築を含む）及びエントランスのスロープの設置を文部科学省の補助金を活用して行った。</li> <li>・学生会館の修繕工事及びLED化を行った。</li> <li>・教室環境整備として本館多目的ホール、201・202・206・306・307・308・309講義室のデジタル化、プロジェクター等の整備を行った。また、本館多目的ホール、201・202・309講義室については、講義が収録できるようにカメラの設置を行った。</li> <li>・1号館1201、1202、1301、1302講義室及び本館204講義室の机と椅子の整備を行った。</li> </ul>	IV  IV
【21】 教育研究等を支援する情報環境等の計画的な整備・充実	<input type="checkbox"/> 各種システムの再構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内ホームページSharePoint化</li> <li>・キャリア形成支援システム再構築</li> <li>・公式ホームページクラウド化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内ホームページSharePoint化については、その必要性について、再検討することとなった。</li> <li>・現行システムにおける課題の洗い出しや担当課の要望等の調整に時間を要し、再構築することができず、引き続き、検討</li> </ul>	III

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【22】研修の機会（学会・研究会等に参加等）を確保するための適切な配慮及び科学研究費補助金・各種団体の研究助成等外部資金への積極的な申請・獲得</p>	<p>□新規採用教員パソコン購入補助</p> <p>□外部資金への積極的な申請・獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費申請の促進に向けた動画教材の活用や教員教育研究経費の配分の見直しなどにより、研究活動の推進に努める。</li> <li>・各種団体の研究助成等外部資金の公募情報を教職員掲示板に掲示、またはデスクネットにアップし、応募の推進に努める。</li> <li>・研究モチベーションを高めるために、科学研究費補助金申請者にはインセンティブとして教員教育研究費を増額する。</li> </ul> <p>□教員教育研究経費</p> <p>教員の教育研究活動のため教育研究旅費、教育研究図書費 教育研究諸費を配分する。加えて、研究室に所属する学生の演習や卒業論文指導のために研究室学生指導経費を学生数に応じて配分する。</p> <p>□図書資料の充実等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生参考用・図書館用等の資料の選定・購入・整理</li> <li>・契約データベース等の整備・サービス</li> <li>・相互貸借・文献複写等ILLサービス</li> <li>・購入雑誌及び保存用紀要の製本処理</li> <li>・寄贈図書の受入及び除籍・処分資料の処理</li> </ul>	<p>することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6（2024）年3月に、公式ホームページをクラウド化し、リニューアルした。</li> <li>・「グループウェアdesknet's NEO」のクラウド版を導入し、学外からのアクセスを可能とした。</li> <li>・補助実績なし。</li> <li>・令和5（2023）年度の科学研究費補助金の新規申請は2名2件であり、前年度（1名1件（採択））と比較すると増加し、申請者2名ともに採択となった。また、申請した教員については教員教育研究経費を増額した。</li> <li>・以下のとおり、企業から、研究助成金を受けた。 経営学部教授 松繁寿和 「従業員満足度調査」（霧島酒造株式会社）</li> </ul> <p>・教員58名に対し、教員研究経費として、11,632千円（1人平均200千円）を配分した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部学科からの要望や学生リクエスト等により、雑誌、図書、視聴覚等の各資料を受け入れた。また、令和5（2023）年度末に電子書籍を受け入れた。</li> <li>・契約データベース（EBSCO）は学内外から利用可能とした。</li> <li>・相互貸借（依頼3件、受付5件）、文献複写（依頼33件、受付11件）のILLサービスを実施した。</li> </ul>	<p>—</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>
<p>【23】図書館機能の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実</li> <li>・インターネット端末を利用した図書館サービスの拡充</li> <li>・各種検定試験や教員採用試</li> </ul>			

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>験・公務員試験など、学生のニーズに合わせた資料の収集・提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域開放、学外利用者の図書館利用の拡充</li> <li>・学生と地域の連携による実践力の向上及び地域貢献を目的とした地域連携事業（子ども達への読み聞かせ等）の実施</li> <li>・研究成果の発信と情報の共有・交換</li> </ul>	<p>□図書館の運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学図書館協議会・研修会への参加</li> <li>・図書館利用統計・利用状況の作成・報告</li> <li>・雑誌・電子ジャーナル等外部データベース等の購入計画の作成</li> </ul> <p>□学生の読書を推進する事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書評・読書感想文コンクール等の実施</li> <li>・学生によるブックハンティング</li> <li>・図書館展示</li> <li>・館報等の印刷・配布等</li> </ul> <p>□学生に対する利用指導の発展及び継続と図書館における学習支援の実施による利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生全員に対する「情報リテラシー教育」</li> <li>・学生に対する情報探索のサポート</li> <li>・学生の情報収集支援として、ILL（Interlibrary</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・購入雑誌製本を17冊作成した。</li> <li>・寄贈図書263冊の受入及び除籍図書344冊を処分した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月にオンラインで開催された2023年度(第53回)私立大学図書館協会西地区部会 中国・四国地区研究会に参加した。また、10月にオンラインで開催された第64回中国四国地区大学図書館研究集會に、香川大学図書館、香川県立保健医療大学図書館とともに、幹事校として参加した。</li> <li>・令和4（2022）年度図書館利用統計を作成し、附属図書館・情報処理教育センター運営委員会及び教授会で報告した。</li> <li>・令和6（2024）年度発行雑誌・電子ジャーナル等外部データベース等の購入希望調査を実施し、継続59点、中止6点を決定した。</li> <li>・書評・読書感想文コンクールを実施し、受賞者8名に対し、表彰式を行った。</li> <li>・前後期で各1回、学生によるオンラインでのブックハンティングを実施し、前期58冊、後期74冊を選書した。</li> <li>・Society5.0関連図書や就職関連、検定用や季節の絵本等のミニコーナーを設け、随時、資料を入れ替えて配架した。また、特集コーナーを設け、概ね半月から1か月程度でテーマを変えながら、資料を展示した。</li> <li>・図書館報第28号を発行した。令和6（2024）年度に、近隣図書館等や学生、教員へ配布する。</li> <li>・図書館の利用説明、検索指導を各学部・学科で実施し、必要に応じて、指導時の資料の準備及び図書館での資料探索時の対応を図書館職員が行った。令和5（2023）年度は、新入生約180名に対し、計7回の利用指導を実施した。</li> <li>・学生の情報収集支援として、ILL利用料を無料化し、12件の利</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【24】 教員及び研究者における研究倫理の遵守及び研究活動の不正防止のための研究倫理審査委員会での審査・判定、不正防止に関する諸規程のデスクネットへの掲載等による周知徹底</p>	<p>Loan) 利用料の無料化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を活用しての授業・ゼミ活動への協力・支援</li> <li>・2階閲覧室及び3階メディアルームのノートパソコンなどの環境整備と活用</li> </ul> <p>□情報発信基地としての役割と地域貢献、研究機関としての研究成果の発信（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要第80・81号の作成及びWeb上で公開</li> <li>・クラウドサービスへの参加により、機関リポジトリとして紀要を発信し、情報を共有・交換</li> </ul> <p>□学外利用者への図書館サービスの提供</p> <p>□研究倫理教育（日本学術振興会eラーニング） 新規採用教員を対象にeラーニングによる研究倫理教育を実施する。</p>	<p>用があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習等で図書館を活用し、ノートパソコンを利用したゼミナール活動、授業を実施した。</li> <li>・授業等のため貸出用のノートパソコンを備え、2階閲覧室のノートパソコンは延べ239回、3階メディアルームのノートパソコンは延べ980回、館内外で利用があった。2階閲覧室には有線のノートパソコンも13台常備し、自由に利用できるようにした。</li> </ul> <p>(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要第80、81号の発行及びWeb上に公開した。 研究紀要第80号 原著論文3、研究ノート6 研究紀要第81号 原著論文3、研究ノート1</li> </ul> <p>(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要第80、81号をクラウドサービス（Jairo Cloud）機関リポジトリとして公開した。</li> <li>・香川県内在住又は在勤・在学の15歳以上の希望者に対し、図書館の利用登録を受け入れた。新規20名、継続16名の利用があった。</li> <li>・令和5（2023）年度新規採用教員1名が日本学術振興会のeラーニングによる倫理教育を受講し、受講後は修了証明書を総務課に提出した。</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p>
<p><b>9. 地域連携・地域貢献</b></p>	<p>令和6年2月、香川県歯科医師会と高松短期大学が歯科医師のサポートや受付業務などを行う歯科助手の養成に関する協定を締結した。医療事務コースの新2年生は4月から県歯科医師会が実施する講習会を受講でき、歯科助手資格の取得が可能となった。</p>		

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>学生による地域でのボランティア活動として「むれ源平石あかりロード」への参加や「げんき村わんぱく通り」の活動などに取り組むほか、新たに「冬の親子ワークショップ」(坂出市主催)に保育学科の学生が参加し、親子とともに活動を行った。また、同様のワークショップを讃岐おもちゃ美術館でも開催した。地域住民の学習ニーズに応えるとともに、地域社会を支える人材を育成するため実施している講座等については、徐々にコロナ禍以前の状況に戻しながら、公開講座や文化講座、高松教養大学、共催事業(町民大学、コミュニティセンター講座、屋島カレッジ)などに約1,400人の受講者・参加者を得て実施した。</p>		
<p>【25】地域社会の発展と安定に貢献できる創造的な研究の推進とその成果の教育及び社会貢献活動への活用</p>	<p>□地域のネットワークづくりとその事業内容の充実(連携協定書等に基づく地域連携の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・地域共創プラットフォーム香川での連携活動</li> <li>・香川県キャンパスメンバーズ制度、高松市キャンパスメンバーズ制度の活用</li> <li>・連携協定締結先(高松市、東かがわ市、坂出市、さぬき市、三木町、日本政策金融公庫、高松商工会議所、一般社団法人香川経済同友会、一般社団法人香川県中小企業家同友会、カマタマーレ讃岐、むれ源平石あかりロード実行委員会、一般社団法人街角に音楽を@香川、NPO法人アーキペラゴ、丸亀町商店街振興組合)との連携活動</li> <li>・大学近隣での地域連携活動 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産学官連携組織『大学・地域共創プラットフォーム香川』に参画し、進学・教育部会、就職・産業部会、地域活性化部会の3部会で連携事業について協議し、事業を実施した。</li> <li>・香川県キャンパスメンバーズ制度、高松市キャンパスメンバーズ制度を活用し、学生が香川県内の施設を利用しやすい機会を提供した。</li> <li>・令和6(2024)年2月に、公益社団法人香川県歯科医師会と高松短期大学との歯科助手受付秘書養成に関する協定を締結し、令和6(2024)4月から、「公益社団法人日本歯科医師会認定 歯科助手資格 乙種第一・乙種第二」の取得が可能となった。</li> <li>・以下のとおり、連携協定締結先との連携活動を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6月に、秘書科「ビジネス実務」の授業の一環でNPO法人アーキペラゴ主催の「さぬきマルシェinサンポート」に3店舗を出店した。</li> <li>・7月に、高松市まちづくりタウンミーティングに参加し、本学学生と高松市長との意見交換を行った。</li> <li>・8、10月に、一般社団法人街角に音楽を@香川主催の「真夏の夜の夢2023inマザーポート高松」、「サンポートオータムジャム2023」、「たかまつ大道芸フェスタ2023」にJAZZ研究会、ジャグリングファームの学生がスタッフとして参加した。</li> </ul> </li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□地域でのボランティア活動の実施</p> <p>地域活性化活動と密接に連携して、地域社会の発展に貢献するとともに、これらの活動を学生の教育・研究に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むれ源平石あかりロード</li> <li>・ウクレレええど</li> <li>・国際フェスタ</li> <li>・読み聞かせ隊(高松市立図書館・高松大学共催「読み聞かせキッズ養成講座」の開催等)</li> <li>・大学祭における絵本の展示・読み聞かせの協力・支援と図書館活動の展示</li> <li>・げんき村わんぱく通り</li> <li>・さぬきこどもの国主催の子育て支援事業「はぐくみ×カレッジ」</li> <li>・坂出市主催「冬の親子ワークショップ」</li> <li>・地元の小学生等のIT関連のイベントへの参加(秘書科ヒューマンITコース)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に、発達科学部学生のチーム「たーちゃんっ子」が「たかまつ政策アイデアコンテスト2023」でアイデア発表を行い、グランプリを受賞した。</li> <li>・11月に、一般社団法人香川県中小企業家同友会主催の「アオ活！ in 高松大学祭・高松短期大学祭」を共催した。その際、経営学部学生が準備の段階から当日まで、スタッフの一員として活動した。</li> <li>・むれ源平石あかりロードは「おかえり ぶらりゆったり石あかり」をテーマに開催され、令和5(2023)年度も一般ボランティアの募集はなかったが、経営学部及び発達科学部学生35名が参加し、会場設営、来場者の案内・誘導、作品の消毒、車両の誘導、与一君(ぬいぐるみ)の運用、ダンス等の活動を行い、来場者から好評を得た。 期 間：8月26日(土)～9月3日(日) 18:00～21:30 作品数：111点 来場者：約20,000人</li> <li>・ウクレレええどは、諸般の事情により中止となった。</li> <li>・「読み聞かせ隊」の活動として、学内のみならず、高松市中央図書館、高松市こども未来館や地域の幼稚園などで絵本の読み聞かせ活動や「読み聞かせJr等養成講座」を11回、開催した。</li> <li>・「げんき村わんぱく通り」の活動として、11月の大学祭のイベントとして多くの子どもたちに遊びを提供した。 また、「出張げんき村」として、年間を通して6回、高松市こども未来館や地域のイベントへの参加、児童福祉施設等への訪問を通して、子どもたちへの遊びの提供や保護者との交</li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<p>□多様な講座を開講して、地域住民の学習ニーズに応える</p>	<p>流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に開催された子育て支援事業「はぐくみ×カレッジ」（さぬきこどもの国主催）に、保育学科2年生7名、1年生3名、教員1名の計11名が参加した。</li> <li>・12月に開催された。「冬の親子ワークショップ」（坂出市主催）は保育学科2年生7名が参加し、親子とともに活動した。また、同様のワークショップを讃岐おもちゃ美術館でも12月に開催し、保育学科1年生6名が参加した。さらに、讃岐おもちゃ美術館では、10月に「ワークショップ：野菜で尺八を作ってみよう！ブルースさんに吹き方を教わろう！」や3月に「高松短期大学 パネルシアターがやってくる!!」を開催した。</li> <li>・高松市消防団機能別分団（大学生8名）を結成し、春日地区自主防災訓練や古高松南地区地域合同防災学習に参加した。また、11月から実施された春日地区防災まち歩きに高松市消防団機能別分団の学生が参加し、データの登録作業を経営学部経営情報コース2年生が行い、春日地区全世帯にハザードマップが配布された。</li> <li>・香川県交流推進課からの依頼に基づき、秘書科学生3名が香川県地域密着型スポーツ活用協議会主催の「地域スポーツチーム×県内大学生との情報発信事業」に参画した。香川県内の他大学の学生や香川県内3スポーツチーム関係者等との意見交換会を複数回実施することで、学生中心のプロモーション動画及びポスターの作製及び展示、「街中ジャック」及び「大学生応援WEEK」等の学生主体の事業を積極的に企画し、多くの同世代の人々に地域スポーツの魅力をアピールすることができた。</li> <li>・5月8日以降新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」と</li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価																																
	<p>とともに、地域社会を支える人材育成等に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座（行政連携講座、他大学との共催講座を含む）</li> <li>・文化講座（春コース、秋コース）、作品展開催（年2回）</li> <li>・高松教養大学（第8期生）</li> <li>・屋島カレッジ</li> <li>・市、町との共催事業（町民大学、コミュニティセンター講座）</li> <li>・県との連携事業（キャンパス講座）</li> <li>・CATVを活用した放送事業</li> <li>・TCEC NEWSの作成・配布（年2回）</li> </ul> <p>□地域経済情報研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会の開催（研究交流事業）年5～6回</li> <li>・研究会の公開（成果の公開）年に1回、一般公開</li> <li>・産官等との連携（共同研究、学術調査事業）、香川県政策部統計情報プラザとの共同研究</li> </ul> <p>□子ども研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども研究所研究会の開催 年2～3回 各教員の専門分野についての研究成果を発表し、意見交換を行う。</li> <li>・「保育所（園）・幼稚園・こども園・小学校教員等の集い」の開催及び報告書発行</li> </ul>	<p>して取り扱われることに伴い、徐々にコロナ禍前の環境に戻しながら各種講座等を実施した。また、大学祭開催時に作品展と、昨年度に引き続き音楽関係講座の発表の機会として2日目に音楽会を開催した。</p> <table border="0"> <tr> <td>公開講座（春・秋）</td> <td>2講座</td> <td>受講生</td> <td>52名</td> </tr> <tr> <td>文化講座（春・秋）</td> <td>66講座</td> <td>受講生</td> <td>687名</td> </tr> <tr> <td>高松教養大学</td> <td>22講座</td> <td>入学者</td> <td>23名</td> </tr> <tr> <td>共催事業（15講座）</td> <td colspan="3">641名</td> </tr> <tr> <td>町民大学</td> <td>3講座</td> <td>受講生</td> <td>149名</td> </tr> <tr> <td>コミュニティセンター講座</td> <td>8講座</td> <td>受講生</td> <td>260名</td> </tr> <tr> <td>屋島カレッジ</td> <td>4講座</td> <td>受講生</td> <td>232名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td colspan="3">1,403名</td> </tr> </table> <p>県との連携事業のキャンパス講座には、2講座に各1名の受講があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携センターニュース「TCEC NEWS」第62号（9／1）、第63号（3／1）を発行した。</li> <li>・地域経済情報研究所研究会を5回開催（うち1回は一般公開）し、35名の参加があった。</li> </ul> <p>・子ども研究所研究会を2回開催し、20名の参加があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育所（園）・幼稚園・こども園・小学校教員等の集い」研修を10月にオンラインで実施した。アーカイブ配信期間を設け、県内の保育・教育機関や自治体等41機関104名と、保育学科及び発達科学部学生と教員が聴講した。</li> <li>・令和4（2022）年度に作成した小学校生活の紹介動画を高松</li> </ul>	公開講座（春・秋）	2講座	受講生	52名	文化講座（春・秋）	66講座	受講生	687名	高松教養大学	22講座	入学者	23名	共催事業（15講座）	641名			町民大学	3講座	受講生	149名	コミュニティセンター講座	8講座	受講生	260名	屋島カレッジ	4講座	受講生	232名	合計	1,403名			<p>III</p> <p>III</p>
公開講座（春・秋）	2講座	受講生	52名																																
文化講座（春・秋）	66講座	受講生	687名																																
高松教養大学	22講座	入学者	23名																																
共催事業（15講座）	641名																																		
町民大学	3講座	受講生	149名																																
コミュニティセンター講座	8講座	受講生	260名																																
屋島カレッジ	4講座	受講生	232名																																
合計	1,403名																																		

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携及び子育て相談や研修、調査 高松市手をつなぐ育成会との連携を図り、各種相談、支援に当たる。</li> <li>□学外利用者への図書館サービスの提供（再掲）</li> </ul>	<p>市内公私立の保育所・こども園・幼稚園に配布した。</p> <p>(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県内在住又は在勤・在学の15歳以上の希望者に対し、図書館の利用登録を受け入れた。新規20名、継続16名の利用があった。</li> </ul>	III
<b>10. 大学運営</b> SD研修として、全教職員を対象に「大学教職員の倫理—学生との関係を考察する」をテーマに研修会を実施した。			
【26】「高松大学・高松短期大学ビジョン2030」及びビジョンを実現するための中期目標・中期計画に基づいた全教職員の意識の共有化と推進	□中期目標・中期計画に基づく事業計画説明会 全教職員を対象に、中期目標・中期計画に基づいた毎年度の年次計画について説明を行い、当年度の目標、業務の達成状況を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以前の実施形態に戻し、理事長・学長及び各部局等（研究科、学部・学科、入学センター、キャリア支援課）からの事業計画の説明に加え、令和5年度は新たに学生支援部（教務課・学生課）の事業計画の説明を行った。また、当日の説明資料はデスクネットの文書管理に掲載し、当該年度の事業計画を大学全体で共有した。</li> </ul>	IV
【27】理事会、評議員、監事の機能の充実	□理事会・評議員及び監事監査（監事研修会等含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会を6回、評議員会を3回開催し、必要な議案について審議を行い、活発な議論が交わされた。</li> <li>・本学園の業務、財産の状況及び理事の業務執行の適正な運営を確保するため、私立学校法及び本学園寄附行為の規定に基づき、決算時監査（5月）のほか、期中監査（決算時を除く四半期中に1回）の計4回の定例監査を実施した。</li> </ul>	IV
【28】管理運営体制の整備・充実及び適切な予算の編成・執行	□予算編成方針の策定と中期目標・中期計画委員会における事業計画案の事前審査の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6（2024）年2月に中期目標・中期計画委員会を開催し、中期目標・中期計画、予算編成方針に基づき作成した令和6年度事業計画（案）について、全学的な観点から審議を行った。</li> </ul>	III
【29】事務組織の見直し・改善による効率的な運営と働きやすい職場	□事務連絡会 職場の良好な雰囲気や環境を整え、各部署が情報の共	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として毎月第3木曜日に開催することとし、4月に年間の開催スケジュールを周知した。事務連絡会においては、各</li> </ul>	IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>環境の整備</p> <p>【30】教員、事務職員等の資質・能力の向上と意識改革、外部研修会への参加や定期的なSD研修会の充実</p>	<p>有化を図るために事務連絡会を定期的を開催する。</p>	<p>課等の行事予定の確認や理事会、教授会での審議、検討事項などを伝達する等、情報共有を行った。</p>	
	<p>□全国労働衛生週間 全国労働衛生週間に合わせて、スローガンや重点的に実施する事項及び対象期間を設定し、健康管理や職場環境の改善への意識を高める。</p>	<p>・全国労働衛生週間の準備期間である9月1日から9月30日の期間、本学のスローガンを「～人生100年時代～こころとからだの健康管理」と設定し、各教職員の健康増進の取り組みを促進するため、①食事、②運動、③ワークライフバランス、④飲酒、⑤喫煙の5項目から1つを選択、健康管理の取組、目標を各自で設定し、実施した。加えて、実施期間終了後、各教職員の取組の達成状況について、アンケートを実施した。なお、アンケートの回収率は約70%であり、回答した職員からは、衛生健康管理の意識付けとなった、生活習慣について考える良い機会となったなどの意見が多く挙げられた。</p>	IV
	<p>□女性の働きやすい職場環境 女性活躍推進法に基づき策定した一般事業主行動計画に取り組む。</p>	<p>・女性活躍推進法に基づき策定した一般事業主行動計画（令和4（2022）年2月策定）において、計画期間は令和4（2022）年4月1日から令和7（2025）年3月31日までとし、「管理職における女性職員の比率を法人全体で40%以上とする。」ことを目標とした。令和6（2024）年4月1日現在で、管理職に占める女性労働者の割合は44.8%となった。</p>	IV
	<p>□新任職員説明会 新任職員説明会で、学長から建学の精神・ビジョン・教育方針等の説明、及び事務局各課から事務手続き等について説明を行う。</p> <p>□加盟協会等研修会、定期刊行物の購読など 他機関等が開催する研修会・啓発セミナー等に積極的に参加し、大学職員に関する知識を深めたり、他大学の取組事例を聞いたり、最新の情報を入手し、業務に役立</p>	<p>・令和5（2023）年度新規採用教員は1名であり、諸手続きのしおり等の関係資料を配布し、個別に説明を行った。</p> <p>・教職員の資質・能力の向上のため、対面やオンライン等で開催される研修会にできる範囲で参加した。</p>	III  IV

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
<p>【31】 IR機能の強化による学内意思決定や教育研究活動の改善等、エビデンスに基づいた大学運営</p> <p>【32】 コンプライアンスの徹底とリスクマネジメントの確立</p> <p>【33】 事業継続計画の策定</p>	<p>てる。</p> <p>□SD研修会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SD活動推進委員会での研修会等の検討、実施</li> <li>・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）等の外部研修参加等</li> <li>・オンデマンド形式で受講できる研修プログラム「e-JINZAI for university」の導入・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SD活動推進委員会で検討した結果、令和5（2023）年9月に、全教職員を対象とした「大学教職員の倫理－学生との関係を省察する」研修を対面で実施し、教員43名、事務職員21名が参加、教員13名、事務職員15名が動画視聴により研修を行った。</li> <li>・令和5（2023）年8月に、「SPODフォーラム2023」の7プログラムに延べ10人が参加し、研修を行った。 (再掲)</li> <li>・令和5（2023）年9月から令和6（2024）年2月までの間に、オンデマンド形式受講プログラム「e-JINZAI for university」を活用し、29名のアクセスがあり、21名がアンケート、23名が受講証明書を提出した。</li> </ul>	III
	<p>□学部・学科会議、事業計画説明会等の機会を利用したハラスメント防止についての意識啓発の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画説明会において、学長からハラスメント防止についての意識啓発を行った。</li> </ul>	III
	<p>□IR委員会の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学IRコンソーシアムの「学生調査」（経営学部、発達科学部1・3年生対象）の実施と結果の分析</li> <li>・短期大学基準協会「短期大学生調査」（短期大学全学生対象）の実施と結果の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学IRコンソーシアムの「学生調査」（経営学部、発達科学部1・3年生対象）を実施し、令和6（2024）年3月に公開された中間集計をIR委員で共有した。</li> <li>・大学・短期大学基準協会の「短期大学生調査」（短期大学全学生対象）実施し、令和6（2024）年2月に受理した集計結果をIR委員で共有した。</li> <li>・IR委員会にて、学内で実施している各種アンケート調査を経年比較し、分析を行うとともに、元データを企画課にて一元管理する旨の協議を行った。</li> </ul>	II
	<p>□新型コロナウイルス対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策会議の開催</li> <li>・感染防止のための消毒等、必要な措置を実施</li> </ul> <p>□危機管理マニュアルの概要版の作成等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「5類感染症」に移行後、学生会館のパーティーション（一部を除く）を撤去したが、各建物の手指消毒及び講義室内の消毒液の設置は継続して行った。</li> <li>・災害等の緊急事態の発生に備え、危機管理マニュアルの概要</li> </ul>	III

中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
	災害等の緊急事態の発生に備え、危機管理マニュアルの概要版を作成するとともに、他大学の策定状況等を参考にしながら、事業継続計画の必要性について検討する。	版を作成し、災害発生時の通報連絡班、物資対策班、被災者対策班、被災施設対策班、救護対策班の班長、副班長に配布した。加えて、デスクネットの文書管理に掲載した。	
<b>11. 財務</b> 財務状況について、公認会計士及び監事から定期的に監査を受けるとともに、財務情報をホームページで公開した。			
<p>【34】財務計画に基づいた安定的な財務基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期目標期間中の日本私立学校・共済事業団の経営判断指標のA3以上</li> <li>・部局毎の財務諸表分析と対策案の具体的対策案の策定</li> <li>・中期目標期間中の学生定員充足率80.0%以上</li> <li>・中期目標期間最終年度の学生定員充足率90.0%</li> <li>・外部資金その他収入の積極的な確保と学納金依存体質の改善</li> <li>・人件費、管理経費等の見直しによる経費削減</li> <li>・照明器具のLEDによる省エネと教育環境の改善</li> </ul> <p>【35】学内外への財務内容の公開による財務の明確化・透明化、財務状況についての監査法人及び監</p>	<p>□管理経費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務委託、保守、借料、補修修繕等</li> <li>・情報システムの維持管理費</li> </ul> <p>□学長裁量経費</p> <p>□光熱水費</p> <p>□人件費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与、福利費（役員・教職員（102人分）、兼務教職員）</li> <li>・退職金（4人分）</li> </ul> <p>□省エネ対策（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化の推進（本館講義室、学生会館）</li> </ul> <p>□財務諸表等の公表</p> <p>財務状況について、公認会計士及び監事から定期的に監査を受けるとともに、財務諸表や監査報告書の内容を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスネットワーク環境整備保守費用などにより保守等経費が増加した。</li> <li>・強化クラブの全国大会経費及び1号館1201、1202、1301、1302講義室及び本館204講義室の机と椅子の整備に学長裁量経費を利用した。</li> <li>・老朽化した空気調和設備の省電力タイプへの更新により電気使用量は昨年度の93.0%に抑制することができたが、水道使用量は、1号館屋上消火水槽のオーバーフロー等により使用量が増加した。</li> <li>・人件費比率は61.3%となり、昨年度（58.6%）より増加した。</li> <li>・照明器具については、体育館及び学生会館のLED化を行った。</li> <li>・財務状況について、公認会計士及び監事から定期的に監査を受けるとともに、財務情報をホームページで公開した。</li> </ul>	<p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>IV</p>



中期目標・中期計画 (令和元～6年度)	事業計画 (令和5年度)	実施結果 (令和5年度)	評価
		スポーツ 44名 (入学金のみ2名を含む) 一般 8名 短大 30名 (短大17.3%) 特別 27名 (入学金のみ17名を含む) 一般 3名	